

令和 7 年産水稻の作柄概況

令和 7 年 11 月 25 日
神奈川県農業技術センター

1 育苗期

育苗期の平均気温は平年並みからやや高く推移した。日照時間は平年より少なく、一部で徒長が見られたが概ね順調に生育した。

2 生育初期（移植期から分けつ期前半）

移植時期の平均気温は平年と比較して、5 月下旬は低く、6 月上旬は平年並み、6 月中旬以降は高温で推移した。

生育状況は平年と比較して、草丈は長く、茎数は多く、葉色は同等であった。

3 生育中期（分けつ期後半から出穂期前）

7 月上旬から下旬にかけて、平年よりも気温が高い日が続き、降水量は平年よりも少なかった。このため、一部地域では中干し後の入水が遅れるなど渇水の影響が見られた。

生育状況は平年と比較して、草丈は同等から長い、茎数は同等から多い、葉色は同等から薄い傾向であった。

4 出穂期

7 月上旬以降の気温は平年と比べて高く、日照時間は平年と比べて長かった。出穂は平年よりも 4 から 5 日早まった。

5 成熟期

登熟期の気温が平年よりも高く、登熟日数が 1 から 3 日短縮し、成熟期は平年に比べ 5 から 8 日早まった。収穫適期は平年に比べ大幅に早まったが、収穫作業は平年よりやや早まったものの大きくは変わらず、全体的に刈り遅れの傾向であった。

生育状況は平年と比較して、稈長は同等から長い、穂長は同等からやや長い、穂数は同等から多い傾向であった。また、9 月 5 日の風雨の影響もあって、一部で倒伏が見られた。

6 収量等

玄米重（収量）は平年に比較し総じて多くなったが、収量構成要素（一穂粒数、穂数、登熟歩合、千粒重）は田植時期や品種による差がみられた。

6 月上旬植えでは品種間差は少なく一穂粒数と穂数が多い傾向で、総粒数は多くなった。登熟歩合も高い傾向で、玄米重（収量）は同等から多くなった。

6 月中旬植えでは品種間差が見られ‘はるみ’では一穂粒数がやや少ないものの穂数が多く、総粒数は多くなり登熟歩合も高かったため玄米重（収量）は多くなった。

‘キヌヒカリ’は一穂粒数が少なく、総粒数は少なくなったが登熟歩合が高かったため玄米重（収量）は多くなった。‘てんこもり’も一穂粒数は少なかったが、穂数は多く、総粒数が多くなり、千粒重はやや軽くなったものの玄米重（収量）は多くなった。

7 玄米品質

出穂期以降の高温の影響で、白未熟粒の発生が多くなった。また、斑点米カメムシ類による斑点米、刈り遅れ等による胴割米、着色米も見られたことから、品質は著しく低下した。

8 病害虫、雑草の発生

病害は紋枯病の発生が見られ一部で倒伏が助長された。

8 月 10 日から 12 日にかけてやや強い風と降雨があり、内穎褐変病等による籾の褐変が各地で目立った。

害虫は斑点米カメムシ類の発生が例年に比べて多く、被害が各地で見られた。スクミリンゴガイは大型の越冬個体が目立った。一部の水田で部分的な被害が見られた。

雑草は活着期から分げつ期に藻類が、中干し以降はヒエ類、ツユクサ、イボクサ、ホタルイ、オモダカ、クログワイの発生が目立った。ナガエツルノゲイトウについては昨年よりも発生ほ場が増加した。

9 作柄概況（神奈川県農業技術センター（平塚市）における成熟期並びに収量等について

本年の成熟期並びに収量等の状況は、平年値（2015 から 2024 年までの過去 10 年平均）と比べて、下記の表のとおりであった。

表 1 成熟期の生育状況（平年対比）

品種	移植時期	稈長	穂長	穂数
はるみ	6 月上旬	同等	同等	やや多い
	6 月中旬	やや長い	同等	多い
キヌヒカリ	6 月上旬	同等	やや長い	やや多い
	6 月中旬	長い	同等	同等
てんこもり	6 月上旬	長い	やや長い	やや多い
	6 月中旬	同等	同等	多い

表 2 収量等の状況（平年対比）

品種	移植時期	玄米重	屑米重	千粒重	一穂籾数	登熟歩合
はるみ	6 月上旬	同等	少ない	同等	同等	やや高い
	6 月中旬	多い	少ない	同等	やや少ない	高い
キヌヒカリ	6 月上旬	多い	少ない	同等	同等	同等
	6 月中旬	多い	少ない	同等	少ない	高い
てんこもり	6 月上旬	多い	多い	同等	多い	高い
	6 月中旬	多い	やや少ない	やや軽い	少ない	同等

注：平年とは過去 10 年（2015 から 2024 年）の平均。ただし、てんこもりは 2018 から 2024 年までの過去 7 年平均である。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課

T E L : 0463-58-0333 内線 381～384